平成 30 年度 研究計画書

Research Plan FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座・教授
氏名 Name	村上 忠良
専門分野 Academic Field	タイ地域研究・文化人類学

平成 30 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2018 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	宗教実践における声と文字—上座仏教圏における仏教文書朗誦についての比較研究				
研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>東南アジアの上座仏教徒社会では、パーリ三蔵経典や註釈文献に加えて、東南アジア地域内で著作された様々なジャンルの仏教文書が継承されてきた。これらの文書は、功德の源泉として、宗教儀礼などで朗誦されたり、供物として供えられたりしてきた。ローカルな言語で書かれた仏教文書は、しばしば「仏教文学」として文学研究の分析対象とされてきたが、文書の社会的受容や文書に関わる文化的な実践が十分研究されてきたとは言えない。特に、声に出して朗誦されるという「本来の読み方」について、適切な関心が払われてこなかった。仏教文書は、テキストを読者個人が黙読を通して受容し鑑賞する近代文学の作品とは異なり、「朗誦する・拝聴する」「筆写する・供える」という行為を通じて社会に受容され、継承されてきた。本研究では、仏教文書の崇拜、奉納、朗誦、書写、保存、継承といった宗教実践を「仏教文書文化」と捉え、仏教文書の声を媒介としたテキストの享受(共有)の形態に注目し、上座仏教圏における仏教文書朗誦の比較から、その特徴を明らかにする。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	文化人類学・民俗学	宗教学	中国哲学・インド哲学・仏教学	東南アジア地域研究	
キーワード Keywords*2	宗教実践	声と文字	上座仏教	経典・聖典	